



AA日本ニューズレター

NPO法人AA日本ゼネラルサービス(JSO)

No.149

専門家からの投稿

日頃よりAAにご協力いただいているAAの友人およびA類常任理事から投稿いただきました。

メンバーやグループ、JSOに関わる貴重なご意見として耳を傾けたいと思います。

AAについて思うこと

A類常任理事

ふじおかじゅんこ

A類常任理事藤岡です。AAとJSOに関わらせていただくようになってから、1年半ほどたちます。通常のミーティングに出ているわけではなく、私の経験は、定期の常任理事会出席、2回の全国評議会出席、そして何回かの各地でのフォーラムへの参加くらいですので、限られた私見になることをご容赦ください。

AAとJSOでのこの1年半の経験を振り返ってまず私の頭に浮かぶのは、今年の全国評議会のことです。常任理事会の業務遂行について多くのご批判をいただき、最終的には、常任理事のうちの一人に不信任が下されました。喧々諤々と論じ合い、一時は感情的になって声を荒げる人が出るような場面もありましたが、結果としては、各自が自身の責任を自覚し、全体としてよい方向に進もうという雰囲気になったことは素晴らしいことと感じました。

以前を知らないのにこのようなことを申し上げるのは僭越なのですが、AAはともかく、JSOは、日本社会同様に、ちょっとした曲がり角を迎えているのかもしれないと思っています。12ステップや12の伝統といったAAの原理原則はこれまで以上に大切になってくるでしょうが、日本社会の中に組み込まれているJSOには、どうしても別の側面が要求されるようになってきていると思われます。すなわち、JSOは、現在NPO法人としての顔も持つようになってきているということです。NPO法人となることは、社会的な信用を得て、「契約」ができるようになったという面では意味があることは言うまでもありません。とはいうものの、任意団体であれば、メンバーの意向を中心に据えて、これまで通りに運営できるでしょうが、NPO法人になることで、国の認可基準を満たすということが必須になります。もっと端的に述べれば、金銭の管理です。これまで、メンバーの献金によって維持・運営されているのだから、メンバーが納得さえすれば、どのように使おうと、どのように収支を記載しようとする程度自由でした。そういう意味では、仲間の信頼にこたえる形で、会計は処理されてきています。

みなさんご存知のこととは存じますが、NPO法人にはかなり規制があり、特に会計処理は相当大変です。実

は、私は別のNPO法人を立ち上げたのですが、会計処理があまりに煩雑で、NPO法人の旗を降ろして、以前のように任意団体として活動していくことに決定したという経験があります。NPO法人は、例えば、介護事業に民間が参入し、利潤を追求するわけではないが、一定の収入を得て運営するという場合には、かなりのメリットがあります。事業を行う契約ができるからです。その代わりと言ってはなんですが、収支を明確にする決算書類の提出が必要なわけです。ところが、JSOは、AAメンバーの献金で成り立っており、出版といっても主としてメンバーが対象であり、目的は「アルコール依存からの回復を望む仲間」を支援することですから、AAメンバーの意識としては、自分たちの献金をどのよう

に使うかは自分たちの自由、つまり家計なわけです。しかし、NPOとしてのJSOは、日本社会に対しての責任も負うので、家計ではなく、会社の経理あるいは公の経理にならないわけにはいきません。

前述の常任理事の不信任には、長く事務を担ってきた方々の待遇に関する意見の相違も一つの伏線としてあったような印象を持っています。なかなか申し上げにくいことですが、よき時代の会計処理は、家計で十分でしたが、NPO法人としてのJSOは、社会に対しては、それでは通らない状態になっています。以前の会計処理は、NPO法人としては不十分なものであったと言わざるを得ません。私が加わった時点での常任理事会は、なんとか家計簿をNPO法人としての会計処理にしようと粉骨砕身していたと理解しています。新しい所長さんなどが次々と退職されたことの原因が、常任理事が職員を尊重しないことにあるかのような誤解を与えていたのではないかと懸念しているのですが、私の理解する限りでは、会計処理を中心としてNPOとしての体制を整えようとする常任理事会の意図と職員およびAAメンバーの方々との間で現状の理解と方向性についての不一致があったと見ています。そのことが不信任という結果の一因にもなったとすれば、きちんと説明できなかったことに対して、常任理事会の一員として責任を感じざるを得ません。とはいうものの、NPO法人としての会計の体制を整えようという常任理事会の方針そのものに問題があるようにも、私には思えません。

ただ、常任理事会も、私もその一員として、JSOとAAの置かれている状況をメンバーにきちんとお伝えすることができないままに、NPO法人としての体裁を

整えるという目標に向かって、結果を出すことを急ぎすぎたということを反省する必要があると考えています。私の印象では、常任理事の皆さんは、チョーが付くほど真面目な方で、「よかれ」と思うと、まっしぐらで、ふと気が付くと周りにはあまり人がついてきていないというような感じもあるやに思えます。意図は善良で、方法もOKなのですが、ちょっとはまり込むというか...。一つ一つを見ると「正しい」のですが、全体として見るといつのまにかバランスを欠いてしまっている、そんなことにもなりかねません。そういう常任理事会のあり方に対するNOを一人の常任理事が代表で引き受けてくださったと、私は理解しています。

AAは、血はつながっていなくても、みな「仲間」あるいは「ファミリー」である、すなわち一人一人の存在と感情と考えが大切という集団だと思います。しかし、NPO法人あるいは社会的組織となると、一人一人の顔は軽視され、組織としての説明責任を求められるようになります。この二つの側面を一つの在り方の中にまとめていくのは、実はそれほど簡単なことではないかもしれません。少なくとも、これまであまり意識されていなかった側面を自分たちの組織の中に取り入れていかなければならないのであれば、急ぎすぎることなく、たとえ時間がかかってもメンバーでじっくり話し合っ、ゆっくり方向性を決めていくことが大切なのだと、今回のことで学ばせていただきました。

AAメンバーのみなさまへ

大阪、新阿武山クリニック
精神保健福祉士
西川京子

突然ですが、AAの活動を敬愛し、感謝している部外者としてお便りします。

先日、キリスト教会の数名の牧師さんたちと雑談をしていました。そこで、日本のAAのメンバーの皆様にお伝えし、お考えいただく必要があると思うことを耳にしましたのでお便りいたします。

「AAに教会の会堂をお使いいただいているが、使用された翌朝は、お菓子のかけらなどが落ちていて、まず掃除です。教会の運営費が乏しいので、夏は扇風機、冬は小さな電気ストーブを私は使っているのですが、AAの皆さんはミーティングのたびに、夏も冬もエアコンをフル稼働です。使用料を月に2,000円と提案したところ、1,500円しか出せないと言われ、貧しいのだと理解し1,500円にしました」と。そのミーティングは毎週開かれており、平均5名~10名の参加だそうです。

他の牧師さんは「以前、教会の会堂をAAにお使いいただいていたが、教会堂の敷地内の空き地に「立ち小便」をする人がいて、結局使用を断りました」と話されました。

このお話しをお聞きして、最近、他の自助グループのメンバーが、教会から使用を断られ、ミーティングの会場探しをしている話を聞いたのを思い出しました。これが教会の都合によるものか、教会の好意でミーティング会場として使用してきた自助グループの常識のなさや

マナーの悪さによるのかは判断できません。でも、牧師さんたちが小声でこぼしたような事実がある以上、今後、現状のままであれば、自助グループの教会堂の使用が困難になるであろうことは推測されます。

AAメンバーの方にこの件でご意見をお聞きしてみました。30~40名のミーティングでも献金が1,000円未満のことも珍しくないとお聞きしました。平均20~30円という献金額には驚かされました。ミーティングの場面を思い出しますと、みなさん120円~150円の飲み物を前において座っておられます。「酒を断ち、命と人生を取り戻す」ために不可欠なミーティングを維持する献金が1本の飲み物代金の5分の1とは理解に苦しみます。

ちなみに、AA同様に「酒を断ち、命と人生を取り戻す」ことに取り組んでいる組織の1カ月の会費は2,000円前後です。

アルコール依存症の回復とは単に酒を断っている時間の長さではなく、身体的、精神的、社会的、霊的にバランスのとれた新しい生き方ができるようになるとされています。今回、話題にしたことは一部のメンバーのことかもしれませんが、「AAメンバーは.....」と判断されます。AAメンバーのみなさまが回復を進める中で社会的バランスのとれた生き方を深められることを願い、祈ります。

NPO法人理事長就任にあたり

特定非営利活動法人AA日本ゼネラルサービス
理事長 糟谷 聡

今期より特定非営利活動法人AA日本ゼネラルサービス理事長に就任いたしました糟谷と申します。法人運営を行うのに必要な役割ということで、常任理事会での話し合いの結果、私が出選されました。任期は2年(再任は妨げない)となっています。とはいえ、NPO法人や法人理事についてほとんど知識のない自分にとって、日を追うごとに、「大変な役割引き受けてしまったものだな」と感じているのが現状です。

AAのゼネラルサービスの一部が法人化されて、数年が経過いたしました。ここで、もう一度NPO法人というものをじっくり立ち止まって見直していきたいと思っています。

まず、NPO法人ってなに？

Non-Profit Organization の略で「非営利組織」または「非営利団体」のことを指します。

不特定かつ多数のものの利益の増進に寄与することが求められており、また会員の資格制限や情報公開など、公益性重視の観点から規制が設けられています。

では、NPO法人にすることによるメリットは？

1：契約の主体になれる。

団体名でさまざまな契約行為ができるため、事務所を借りたり、物品を購入したり、リース契約ができます。また、団体名で銀行口座が持てるので、個人と団体の資産を明確に分離させることが可能になります。契約に伴うリスクは、団体の資産の範囲内で負うに留まります。

2：代表者の交代が円滑になる。

NPO法人は、団体が資産を保有できるため、任意団体のように代表者交代のたびに各種資産の名義変更をする必要がなく、円滑に代表者を交代させることができます。任意団体では、代表者が死亡した場合には、その資産は代表者の家族が相続することとなり、団体の資産が消滅してしまう恐れがありますが、法人化することにより、団体の資産をそのまま団体に残すことができるようになります。

3：従業員を雇う(任意団体でもある程度可能ですが)

NPO法人は、各種活動を行うために必要な職員を雇用することができます。例えば、事務を行う職員に、きちんとした給料や報酬を払うことができます。もちろん、厚生年金や健康保険、雇用保険にも加入できます。そのため、ボランティアだけに頼らない組織的な活動ができるようになるほか、雇用の受け皿としての社会的役目を務めることもできます。

4：社会的信用が高まる

法人設立により、権利・義務の主体が明確になるため、各種取引における信用が高まるのはもちろんのこと、政府の認証を受けたNPO法人ということで、国家のお墨付きということとなり、組織内容や活動内容においても高い信用を得ることができます。

それ以外にも、資産の保持や税制面でのメリットもあります。

NPO法人のデメリット

1：厳正な事務処理が必要

経理は、正規の簿記の原則に基づいて処理を行う必要があります。(明確な会計基準があるわけではありませんが)

2：税務申告義務がある

出版事業は収益事業として、法人税の対象となります。

3：情報開示が必要

毎年、事業報告書や収支計算書などの資料の備え付けと、その資料の情報公開が義務づけられ、今までは表に出さなかった書類も万人に閲覧されることとなります。

4：残余財産の帰属先

解散時(所轄庁の認定取り消しや総会の決議の結果)残余財産の譲渡先を任意で選ぶことができます。

また、法人を構成する会員(社員)は法人の目的に賛同する個人および法人を原則入会承認せざるを得ません。

このような現状をふまえ、今後のAAサービスを充実させていきたいと思っています。まだまだ分かりにくい点が多くあるかと思いますが、多くの仲間のご意見をお寄せいただき、ご協力いただけますようよろしくお願い申し上げます。

「関東甲信越地域春季ラウンドアップ in 白樺湖」を終えて

関東甲信越地域ラウンドアップ委員
白樺湖ラウンドアップ実行委員長
ゆう

2011年5月27~29日にかけて、『関東甲信越地域春季ラウンドアップ in 白樺湖』が開催されました。

今回の白樺湖ラウンドアップの特徴は、主催が地区と地域の共催ではなく地域のみだった、ということです。手元の資料を見ると、平成8年(1996年)以降、15年間に渡り各地区がラウンドアップ実行委員会を担当してきました。

もっともそれ以前はJSOや地域委員会、または地域ラウンドアップ委員会が主体だったそうですが、当時の地域委員会で協議され、現在に至るまで約15年間、各地区持ち回りのかたちを取ってきました。

ところが去年(2010年)の夏を過ぎた時点で、来年(2011年)の春季ラウンドアップの開催地区が決まりませんでした。当時のラウンドアップ委員(僕を含め3名)で話し合ったことは、「開催地区が立てられないなら1年に1度のラウンドアップではどうだろうか」ということと、「地区が見つからないなら地域主体でやってみようか」ということでした。

そこで夏から秋にかけて、地域ラウンドアップ委員会に、過去に地域主体のラウンドアップあるいはJSO主体のラウンドアップの経験があるオールドタイマーの方をお招きして当時の話を聞いたり、前ラウンドアップ委員の先輩方のアドバイスを受けたり、また地域サービス経験が豊富な方たちの意見を聞いたりしました。

結局決まったことは、「地域主体でラウンドアップをやってみよう」でした。

さっそく地域委員会や口コミ等、さまざまな方法でラウンドアップ実行委員会への参加を呼びかけました。新しい仲間やラウンドアップ未経験者大歓迎、やる気のある仲間大歓迎、で昨年11月28日に地域ラウンドアップ委員会を迎えました。

そこには数名の実行委員希望者が集まってくれました。

感激で涙が出る思いでした。

12月から実行委員会が本格的にスタートし、回を重ねるごとに、募集を聞いた仲間たちが集まってきて、実行委員のメンバーが増えていきました。

ただラウンドアップ開催日が2011年5月末に決まっていたので、年が明けて僕たちに残された時間はすでに半年しかありませんでした。半年でどこまでできるだろうか……という不安は正直ありましたが、実行委員会を重ねるごとにその不安は消えていきました。

というのは、集まってきた仲間と同じ目的に向かって同じ時間を過ごし、信頼関係が深まるにつれて、「この仲間たちとだったらどんなことも乗り越えられる!」という気持ちが僕の中に強く湧き上がってきたからです。

ところで僕個人の話をしめすと、3年前に石和ラウンドアップで一度実行委員会を経験し、昨年からは地域ラウンドアップ委員になり、千葉御宿ラウンドアップと南多摩(八王子)ラウンドアップを経験しました。しかし御宿は地域ラウンドアップ委員になったばかりで、ラウンドアップ委員がどんな活動をするのかさえわからず、前任のラウンドアップ委員のあとをオロオロとついて歩くだけでした。南多摩ラウンドアップのときは、何度か実行委員会に足を運び、自分にわかる範囲で相談に答え

たり資料提供したり、当日は多少ばかりのお手伝いをしました。その他の活動としては白樺湖以後のラウンドアップ開催候補地へ地区委員会の参加をし、開催立候補の要請等、通常のラウンドアップ委員としての活動をしてきました。

今年になって前任の仲間が任期を終えて、今年は自分がラウンドアップ委員の主体となるわけで、いろいろ考えては重圧に苦しんだりしていました。

話が横道にそれましたが、そんな中での白樺湖ラウンドアップ実行委員会のスタートだったので、呼びかけに仲間が集まってきてくれて本当に嬉しかったです。

みんながそれぞれ役割を持って活動し、報告し合い、話し合っただけで、だんだんと白樺湖ラウンドアップが形を見せてきました。

今回は企画係をラウンドアップ実行委員会初参加の二人が担当しました。このことが何より最大の成果であったと思います。各自、仕事があるにもかかわらず、夜遅くまで知恵をしぼり、どんなラウンドアップにするか企画を立て、ミーティングの前後に二人で相談したり意見をぶつけ合ったりしたそうです。初めて試みた企画も多数ありました。シニアミーティング、概念ミーティング、ラウンドアップオリエンテーション等々。結果は大好評でした。

今回のテーマは『気楽に仲間とAAざんまい』ということで、各種ミーティング等盛りだくさんで、来てくださったみなさん、楽しんでAAざんまいできたのではないかと思います。

また今回は、二日目の午後にコンベンションホールにて、長野県立こころの医療センターの院長である樋掛先生をお招きし、「医師の立場から見たAAまたはアルコール依存症」という内容で講演をしていただきました。当日は同センター看護士長の寺沢様、ソーシャルワーカーの武川様にもお越しいただき、会場には相当数のメンバーやご家族の方が聞きに来てくれました。樋掛先生の講演のほか、入院中に先生にお世話になった長野の仲間に出会って話をしてもらったり、質疑応答の時間等も非常に盛り上がりしました。

それからレクレーションとしては、ハイキング、ソフト、テニスの企画があり、各係の仲間が事前調査、会場おさえ、備品の段取りを一生懸命しました。残念ながら当日は天候があまり良くなく、ソフトとテニスはほとんどできませんでした。しかしハイキングは予定通り決行し、後日には山で撮った写真を見せてもらい、ラウンドアップを満喫してもらえたことがすごく嬉しかったです。

ラウンドアップ当日、ある意味では主役は会場係なのかもしれません。会場係リーダーは、ラウンドアップ実行委員会初参加の女性メンバーが担当し、経験ある心強い男性の仲間たちが脇を固め、活躍してもらいました。

そして忘れてならないのは長野地区の仲間です。今回ラウンドアップが長野県の白樺湖で開催すると決定したときから、何度か長野地区を訪れ、仲間を通じて協力を呼びかけました。そして当日は「ようこそ長野へ」と

いう卒を、二日目の朝から夕方までは各種ミーティングの会場係を快く引き受けてくださり、地域と長野地区のコラボレーションができたことは本当に感謝です(長野地区のみなさん、ありがとうございました)。

他に目玉企画として、ラッフルやフォークコンサートもあり、ロックやフォークや爆笑トーク、中でも仲間のフラメンコ披露は拍手喝采でした。さらに温泉は24時間入浴可、カラオケはたっぷり堪能でき、白樺湖ラウンドアップは本当に盛りだくさんだったと思います。

さて、地域主体で実行委員会を立てた部分で、例年とは大きく違う面がありました。それは実行委員会のメンバーがグループも地区も全然違う、ということです。このことは本当に素晴らしい経験になりました。地理的な理由で普段あまり同じミーティングに出る機会のない仲間が、実行委員会として半年のあいだ、一つの目的に向かって活動するというのは本当にすごいことで、はじめは緊張したり照れたりしていましたが、当日が近づくにつれ、遠慮もなくなり(笑) 真の友情が芽生えました。この滅多にない機会を与えてくれたハイパーパワーに感謝です。

それから、陰で実行委員会を支え手伝えてくれた多くの仲間、ありがとうございました。

最後になりましたが、白樺湖ラウンドアップに来てくれたAAの仲間たち(他地域からもたくさん参加していただきました) 家族の方々、医療関係のみなさま、行政関係のみなさまに心からお礼申し上げます。

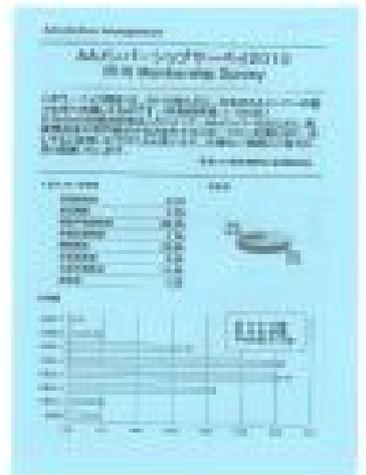
AAメンバーシップサーベイ 2010 版完成

発行が遅れ、みなさまにはご迷惑をおかけしましたが、メンバーシップサーベイ2010年版が完成いたしました。

ご利用いただける方は、J S Oまでご連絡ください。(A4サイズ両面コピーを二つ折り/青色紙に黒字印刷) ホームページからもダウンロードできます。(トップページ>AAニュースレター)

無料ですが、必要な数だけご注文いただくようお願いいたします。

なお、今回はJ S Oで印刷しているため、過去のものより品質が劣ります。諸経費削減の折、ご理解いただけますよう、よろしく願いいたします。



編集・発行： NPO 法人 AA 日本ゼネラルサービス (J S O)

〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 3F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

<http://www.aajapan.org> jso-10@fol.hi-ho.ne.jp

(月～金) 10:00～18:00 (土・日・祝) 休